

## B-2:研究コンプライアンスとリスク管理

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 10:40-12:10 中会議室201(2階)

### URAのための研究公正・研究倫理の重要性について ～全国の大学アンケートおよび国際調査に基づく現状～

現在、文部科学省等が発表した「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」により、研究機関の責任として、所属する構成員に対して研究者倫理の教育機会を提供することが求められている。しかし、より適切な研究環境や意識、すなわち研究風土 (Research Climate) を醸成するためには、教育以外の形でのアプローチも必要だと考えられる。

研究公正や研究倫理に関して、これまで主に研究者を対象に議論が行われてきた。だが、国際的な研究開発が進む中、研究機関の事務担当者・執行部、URA等の研究支援を行う者（以下、研究支援者）の活動は重要な意味を持っている。その中でも、URAの業務は研究費の申請やプロジェクトの管理など、研究現場に深く関与しており、彼らは研究者同様に研究公正の知識を時宜に合わせて最新に保つ必要があるように思われる。研究活動に携わるすべての者が研究公正のプロセスの一部であるという自覚を持ち、研究公正の理解を高めるべきであろう。

本セッション関係者は、これまで触れられる機会の少なかった研究支援者向けの研究公正や研究倫理に関して、研究者とは異なる客観的な視点も交えた現状や国内外の最新情報を調査している。そのための必要な基礎データとして、AMED研究公正高度化モデル開発支援事業プログラム「研究機関の研究支援ガイドラインの構築に関する国際調査研究」（研究代表：野内玲）に基づき、全国の大学の研究科長や研究支援者に向けたアンケートを実施した。現在、その結果等を踏まえ、URAも活用できる「研究の公正性の向上と研究風土の醸成を推進するための研究支援体制のガイドライン」を作成中である。本セッションでは、この「ガイドライン」設定に向けて参加者らと意見交換を行い、研究公正・研究倫理のみならず、広く研究力強化促進に向けた議論を展開する。

## オーガナイザー

三宅 雅人:奈良先端科学技術大学院大学・研究推進機構・  
准教授 国際共同研究担当ディレクター



英国ケンブリッジ大学教員、国内外の半導体装置メーカーのテクニカルマーケティングマネージャー、新規技術分野推進室・室長を経て、2014年1月にURAとして本学に着任。その後、研究推進機構の准教授に、現在は、国際共同研究推進並びに産官学連携・地域連携業務を行っている。また、2020年より戦略企画本部IRオフィス並びに2021年からは地域共創推進室の室長補佐として、幅広い業務に携わっている。

## 講演者

### 野内 玲:信州大学・医学部 公正研究推進講座・ 助教(特定雇用)



名古屋大学工学部と文学部を卒業後、同大学大学院文学研究科で科学哲学の研究により博士号を取得。その後、信州大学医学部に着任。現在は、医学部公正研究推進講座の助教として研究者倫理の教育・研究活動に携わる。2019年度よりAMED「研究公正高度化モデル開発支援事業」プログラム代表者として、国内外の研究風土に関する調査研究を進めている。

### 村澤 昌崇:広島大学・高等教育研究開発センター・ 准教授、副センター長



広島大学大学院教育学研究科博士課程を修了後、広島大学大学教育研究センター助手、広島国際学院大学現代社会学部講師、広島大学高等教育研究開発センター講師を経て、現職。博士(教育学)。専攻、教育社会学、高等教育論、教育社会学が専門。主として高等教育に関する計量分析の従事。

### 柴田 徹:東京都立大学・総合研究推進機構・ URA・産学連携専門部長、主席URA



2011年8月より産学公連携コーディネータとして首都大学東京(当時)に勤務。2014年よりURA職となり、2020年4月より東京都立大学に大学名称変更し現職。URA業務の統括および対外的な窓口業務を担当。得意分野はポストアワード、産学連携、知財戦略、大学発ベンチャー支援など。現在、立教大学MBA、東京農工大MOTで非常勤講師を兼務し新商品開発、ビジネスプランの講義を担当している。